

令和6年度 第1回 地方独立行政法人新小山市市民病院評価委員会 会議要録

日 時：令和6年7月3日（水） 13：30～15：30

場 所：小山市役所3階 会議室 ab

出席者：浅井秀実委員長、朝野春美委員、岸野康之委員、島朋幸委員

【新小山市市民病院】

島田和幸理事長、西村美和看護部長、関彰事務部長、大塚勝美事務副部長兼経理課長、
布施由弘総務課長、関悟人事課長、大川剛医事課長

【事務局（保健福祉部健康増進課地域医療推進係）】

黒川澄子保健福祉部部長、福原円保健福祉部次長、栞原洋子健康増進課長、
秋山典子地域医療推進係長、渡邊守覚主査、鈴木智美保健師

会議経過

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 自己紹介

発言者	内 容
4. 議事（浅井委員長進行）	
	（1）令和6年度評価委員会審議事項及び評価スケジュール等について
事務局	事務局説明【資料1－1、1－2参照】
委員長	質疑応答
	特になし
	（2）令和5年度事業報告書及び財務諸表等について
新小山市市民病院	事業報告及び財務諸表説明 【資料3－1】法人の総括と課題、理事長メッセージ、財務内容の改善に関する取組み 【資料4】財務諸表等
委員長	質疑応答
委員	各種ハラスメントへの対応について。 ここ最近、航空業界の方で「こういうお客様の態度を私たちは許しません」といった方針を出していた。 病院の方でも「暴力は許さない」といったポスターの掲示等の対応をしていると思うが、カスタマーハラスメントの発生する場面があると思う。 ハラスメントに関する法律が出来たりしているが、病院として具体的にどのような対応をプラスされたのかを教えていただきたい。
新小山市市民病院	カスタマーハラスメントへの対応について、去年新たに行った対応はない。 ただ、職員を守らなければならないという観点から、外来では1名警察官のOBが目光らせているようにして何らかの問題が起きた際にはすぐに駆けつけるようにしている。 院内においても何か問題があったらすぐに駆けつけられるよう、保安室が中心となって職員を守る姿勢を取っている。 朝野委員がおっしゃっていたような動向については課題として捉え、今後強化していけるよう努めているところである。
委員	皆さんが安心して働ける職場づくりが出来たら良いと思うので、お願いします。
委員	資料3－1の43ページにある“個人情報の保護と開示”というところの最後に記載されている「添付ファイルの開封パスワードを付与する仕組みを導

	入した」とあるが、具体的にどういうことが教えていただきたい。
新小山市民病院	病院の中のシステムにおいて、電子カルテを中心とした医療系のネットワークと、メールやインターネットといった対外的なネットワークとは完全に切り離して運用している。 元々医療系のネットワークは厳重なセキュリティ対策で守っていた。 もう一方のネットワークの方については、去年からメールでファイルを院外に送る際にシステムで自動的にパスワードを送り、そのパスワードが無いとファイルを開けないように仕組みを作る等の強化を行った。
委員	その仕組みはいわゆるP P A P方式と呼ばれる暗号化されたファイル付きのメールとパスワードの2通が送られる形か？ 暗号化はZ I P方式か？
新小山市民病院	申し訳ございません、本日システム関係に詳しい者がいなくてすぐには回答できません。
委員	もし先ほど言った形式であったとすると、最近やめようという動きが内閣府から出ている。 暗号化されたファイルとパスワードを同じ通信経路で送るとするのはセキュリティを考える上で意味がないものである。 セキュリティを強化するのであれば、ファイル転送サービスを利用する、パスワードを別の通信経路で送るなどする必要があるのではないか。
事務局	事務局では新小山市民病院からデータを受け取ることがあるが、ファイルはメールに添付されているのではなく、ファイルがアップロードされたクラウドサービスのU R Lとパスワードがそれぞれ別のメールで送られてくる形になっている。
委員	そういった形式であれば問題ない。 安心した。
委員	財務諸表の内容について。 黒字は継続しているものの前期に比べて医業費用が増加している。 主なところは材料費、特に医薬品と診療材料。 化学療法にかかる高額薬品の使用増加が理由とのことだが、今後も化学療法の薬品の仕入れは恒常的にこの水準が続くのか？ 今後同じ収益規模であっても同程度の材料費が継続されていくと見ていいか？
新小山市民病院	令和5年の材料費は今後のことを考えるとボトム（底値）であると考えている。 医薬品も製薬会社・問屋による値引きの幅が削られてくると推測される。 診療材料費も物価高騰で仕入額は増えると推測される。 同じ医業収益の水準でも材料費は上がっていくと思われるが、少しでも抑制できるように努めていく。
委員	ここ2年はどこの医療機関を見ても各項目が顕著に上がっている中で、見比べると一般経費と人件費が低く抑えられていて材料費だけ突出して上がっていたので質問した。 もう1点、世間では令和4年から令和5年にかけて賃上げ圧力が高まっていたが、こちらの給与費を見ると比較的フラットに推移している。 令和6年は伸びていくか？
新小山市民病院	処遇改善等もあるので、伸びていくと考えている。
委員	令和6年度診療報酬改定で新設された「ベースアップ評価料」の届出はしたか？

新小山市民病院	すでに届出をした。
委員	可能な範囲で答えてもらえればよいが、届出による収入分と同程度を給料に反映させるのか？
新小山市民病院	職員を確保するという観点から、若干の上乗せをしている。 令和4年度に賞与を上げたがベースアップは行っていなかったため、ベースアップ評価料が上がることに $+\alpha$ を加えた形で行うことにした。
委員	人材確保・人材育成というところで、事務・医師・看護師一丸となって病院全体で取り組んでいる姿に感心している。 さらに推し進めていただきたい。
新小山市民病院	(3) 中期目標期間見込み評価について 【資料5-1、5-2】説明
委員	ひとりごとのような話になるが、周産期医療に関して。 こちらでもそうだが、あらゆる地域病院で越えがたい課題となっている。 国の作っている仕組みの問題なので仕方ないというところもあるが、民間人の視点で見ると、今も産科を頑張っている医療機関に対し公的なケアを加えていくということをもっとすればいいのにとすることがある。 施設面・資金面で直接的にバックアップしていくというのは他の民間事業者との公平性を阻害するものではないのではと。
新小山市民病院	産婦人科のコミュニティについて、いわゆる民間型の産科施設を重視するという方向性で日本がやっていくということであれば、今行っている周産期医療推進の旗を降ろす。 一般的な施設で出産したいか、総合病院で出産したいかということを考えてみてもらいたい。 ここに加わってくる要素として出産の保険適用の問題がある。 産婦人科は経済的にやっていけなくなるということで反対している。 新小山市民病院としては保険適用でも問題は無い。 国が方針をきちんと決めてくれれば、私たちはそれに従う。
委員	自治医科大学・獨協医科大学から医師を派遣してもらわないとなかなか難しい。 ただ両大学から派遣できる人材がいらない、人がいないとどうしようもない。 出産が保険適用になる動きがあり、それによりこういった状況になるか分からない。
委員	その他業務運営に関する重要事項について。 公立病院の役割を職員一人一人が自覚して、考えて行動していくというのは重要なことだと思った。 市におんぶにだっこ状態でない、病院が努力している姿勢には頭が下がる。
	議事終了
4. その他	
事務局	今後の評価等、提出資料について説明

5. 閉会